

琉球・沖縄 年中行事 Q&A

?なんでも!

仏壇の扉の開閉について



●Answer
帰依 龍照(きえりゅうしょう)
沖縄市・コザ山球陽寺住職

Q

先日、法事の席で、お仏壇の扉の開閉

閉めについての作法が、親戚の間で話題になりました。わが家には、お仏壇がないので、詳しいことが分かりません。沖縄の作法を教えてください。

(恩納村・Yさん)

A

Yさんの親戚の方々には、お仏壇をとっても大切にされているのですね。沖縄のお仏壇には、おっしゃる通り、扉の開閉について、いくつかの作法があります。

中国や本土の多くのお仏壇の扉のスタイルは、信仰する観音さまの名前から、観音開きと呼ばれます。これは、左右対称の2枚の扉を中央から両横に開く様式で、一般的に扉が二つ折りになるものです。

一方、沖縄のお仏壇の扉のスタイルの多くは、格子戸をスライドさせることから、引き戸と呼ばれます。これは4枚の扉を折半し、2枚の扉を中央から両横に引く様式です。沖縄のお仏壇では、この引き戸に開閉の作法がありますが、地域・家庭によって異なりますので、以下を参考にしてください。

【終日開口】

お仏壇の引き戸を、一日中、開けておく作法を、「終日開口(しゅうじつかいこう)」といいます。この作法では、4枚の扉を折半し、2枚の扉を中央から両横に引いた状態にしておきます。その意味は、扉を開けておくこと、私たちの世界(生身「イナミ」とご先祖さまの世界(後生「グソー」)が、終日、真心でつながるといふ考え方によります。

【終日撤去】

お仏壇の引き戸を、一日中、取り外した状態にする作法を、「終日撤去(しゅうじつてつきよ)」といいます。終日開口と同じように、扉を開けておくと、私たちの世界とご先祖さまの世界とが真心でつながるといふ考え方によります。扉を開けるだけでなく、撤去することで、より一層、広く、私たちの世界とご先祖さまの世界とつながるようにとの気持ちが込められています。

【半日開口】

お仏壇の引き戸を、日中は開けておき、夜間に閉める作法を、「半日開口(はんじつかいこう)」といいます。

ます。開けた状態は、「終日開口」と同様で、閉めた状態とは、その2枚の扉を両横から中央に戻すことをいいます。「終日開口」「終日撤去」と同じ考え方による作法ですが、「夜間は、ご先祖さまも、私たちと同じようにお休みください」という思いやりの気持ちが込められています。

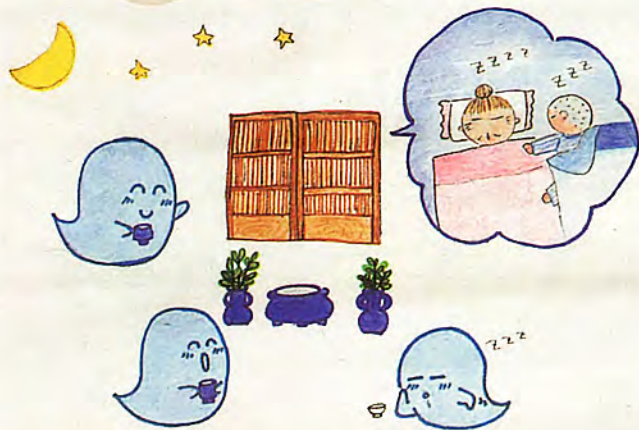
沖縄では、お仏壇の扉のことを、「グソーヌジョーミチ(後生の門道)」と考え、ご先祖さまの世界への入り口、あるいは私たちの世界との境界線として、敬う慣習があります。この考え方は、シンジュークニチ(四十九日)の翌日の五十日にお墓に向き、「ヒラチ

(平蓋)」と呼ばれるお墓の扉を漆喰などで塗りふさぐ、「ハカストウドウミ(墓の戸止め)」の慣習にもつながると言い伝えられています。

お仏壇の扉の開閉の作法にも、大切な意味合いを持たせるのが沖縄の慣習です。片手で仏壇の扉を開け閉めした際、「ウグワンス(仏壇)は、ティールサ(合掌)みたいに、両手で開け閉めするんだよ」と先輩方から指導いただけるのも、心から深くうなずける思いです。

Yさんの親戚の方々のご意見も、多分、このような内容だったのでしょね。沖縄って、本当にありがたい作法がたくさんありますね。

ご先祖さまへの思いが、扉の開け閉めにも表れているんですね～



イラスト：帰依ひろ子

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は26面をご覧ください。

帰依 龍照 1968年岡山県出身(満47歳) / 学歴:岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒 / 専門分野:哲学(宗教哲学) / 沖縄県内で年間多数の起工式(地鎮祭)を担当する / 著書:『琉球・沖縄儀式・法要事典 作法・心得編』県内有名書店にて発売中 / 薫龍・啓龍・剛龍の三男の父親です。